

平成 27 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

高校教育課

1 調査の対象校

- 県立高等学校 85 校（長野西中条校と篠ノ井犀峽校は 1 校としてカウント）
- 県立中学校 2 校

2 実施状況のまとめ

(1) 匿名性を担保した授業評価

() 内は H26 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回	85 校(80 校)	2 校(2 校)
	1 回	0 校(5 校)	0 校(0 校)
実施校データ	回収率の平均	92.8% (92.4%)	94.7% (98.4%)
	自由記述欄への記載の割合	約 19% (約 15%)	約 9% (約 25%)
	集計のための人員・時間	平均 4.5 人 (3.7 人) 平均 13.9 時間 (14.0)	平均 5.5 人 (5.5 人) 平均 10 時間 (22.0)

※ 2 回目のデータで集計

(2) 匿名性を担保した学校評価

() 内は H26 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回	11 校 (7 校)	0 校 (0 校)
	1 回	74 校 (78 校)	2 校 (2 校)
実施校データ	回収率の平均	生徒	77.6% (85.7%)
		保護者	64.7% (63.8%)
	集計のための人員・時間	平均 3.2 人 (2.2 人) 平均 10.7 時間 (10.4)	平均 1.0 人 (2.5 人) 平均 21.0 時間 (16.0)

※ 2 回実施した学校については、2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 評価結果を被評価者に示し、被評価者は授業の中で評価者（生徒）に対し授業改善の方法等を説明し授業に反映。（全校）
- 評価結果のまとめを学校のホームページで公表。
- 講座ごとに評価結果を集計したものを校内 LAN のサーバにアップしたり、職員会議で配付することにより、教職員間で結果を共有。個々の教職員の課題を理解し合ったり、お互いの授業を積極的に見学したりすることにより、教職員個人の成長と学校全体の教育力を向上させてい

くことに活用。

- 学校評議員会で委員に集計結果を示し、昨年度との比較を説明。

【学校評価】

- 学校評議員会、P T A会議等で集計結果と記述部分について資料を配付し、説明・意見聴取。(全校) また、学校のホームページで公表。
- 中間評価において指摘された点について、年度中に対応できるものに関して改善し、その結果をホームページで報告。(通学バスの増便、暑さ対策としての扇風機の設置等)
- 学校評議員会で委員に集計結果を示し、昨年度との比較を説明。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 年2回実施することで、授業改善の結果を確認。
- 後期の評価において、評価する生徒に『前期評価からの変化』を記入してもらう工夫を実施。
- 年間には2回の授業評価を実施しているが、学期ごとに独自の評価項目を作成し、授業アンケートを行っている教諭が増加。
- 従来から授業公開や教員相互の授業参観を行ってきたが、この匿名評価をきっかけに、授業改善に向けた機運が一層高まり、若手教員が年配の教員に積極的に相談するなど、姿勢も変化。

【学校評価】

- すぐに改善できるものは年度内に対応し、次年度の学校の運営方針策定の際の重要な資料としても活用。
- 学校評価の記述部分をすべて印刷した資料を職員会議で配付、改善策を検討。また、各担任に当該のクラスの保護者の記述内容をすべて配付。部活動の顧問についても同様。
- 体罰をなくすための取り組みやコンプライアンスの意識向上に役立てた。
- 昨年度の学校評価アンケートででてきた要望を、本年度の教育活動のなかで改善をはかった。
・トイレの改修(一部洋式化)、P T A総会時に班活動保護者会を実施 など

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- 評価シートの枚数が多くなってしまったため、設問の仕方の工夫等で集計作業の負担軽減を図ったが、処理・集計方法について更なる改善が必要。
- 保護者からの指摘について、更に詳しく聞きたい場合でも匿名のため聞くことができなかった事例があり、設問の仕方などで工夫が必要。
- 匿名での自由記述ゆえに配慮に欠ける記述も一部あるが、学校を誹謗中傷する記述は、全体的に減ってきている。
- 郵送により評価用紙の配付・回収を行った学校は、回収率が低かった。
- 2年目の慣れや他のアンケートも多いことから、自由記述欄の記入量が減少したと思われる。

6 参考(回収・集計のための工夫)

- 保護者懇談会の際に用紙を配付したことにより、昨年度よりも回収率がアップした。
- パソコンまたはスマートフォンで各自の評価を入力し、自動的に集計できるソフトを使用することにより、集計時間が大幅に短縮。

平成 27 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

特別支援教育課

1 調査の対象校

- 県立特別支援学校 18 校

2 実施状況のまとめ

- (1) 匿名性を担保した授業評価（準ずる教育課程校 8 校中）（ ）内は H26 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	3 校	(3 校)
	1 回	5 校	(5 校)
実施校データ	回収率の平均	93.8%	(97.1%)
	自由記述欄への記載の割合	約 17%	(約 25%)
	集計にかかった時間	平均 1.8 人 平均 2.1 時間	(1.9 人) (4.7 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

- (2) 匿名性を担保した学校評価（県立特別支援学校 18 校中）（ ）内は H26 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	6 校	(5 校)
	1 回	12 校	(13 校)
データ実施校	回収率の平均	79.8%	(80.6%)
	集計にかかった時間	平均 2.5 人 平均 10.1 時間	(4.6 人) (12 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 各教科担任が、評価者（生徒）に対し、授業改善の方向を説明した。
- 評価結果のまとめ（冊子）を作成し、保護者及び学校評議員に配布した。
- 評価結果を教職員で共有し、授業改善や要望への対応を検討し、可能なものはできる限り実施するようにした。

【学校評価】

- 保護者や生徒から改善を求められたことについては、学校運営委員会と職員会議で検討し、学校便りを通じて改善の方向を家庭に伝えた。
- 学校評議員会で評価のまとめについて説明し、さらなる改善点について意見をいただいた。
- 学校評価の結果及び課題に対する改善点について、全校授業参観日で保護者に説明した。
- 評価結果と分析及び改善の方向をホームページで公開した。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 授業での学習内容が十分に理解できなかったとの評価を受け、授業の見返し場面で、児童生徒一人一人の理解の様子をよりていねいに見とどけるよう改善を図った。
- 環境面についての意見を受け、改善を図った。（視覚障害特別支援学校で、段差に色テープを貼って見えやすくする工夫など）
- 職員会議で回答集計結果を扱い、課題等を全職員で共通理解を図るとともに、改善を必要とする項目については、部会等で授業や部運営の改善点を検討する際の視点にした。
- 中間評価と最終評価を比較した結果を、各部及び教科担任で確認し、次年度の授業改善に活かすようにした。

【学校評価】

- 教員の専門性の向上を図るため、希望者が自主的に研修できる機会を設けた。
- チーム支援に期待する意見を受け、その充実について学校ランドデザインに明確に位置付けるとともに、職員へも意識化を行った。
- 部の職員室を整備して、教室に置いてあった職員の机等を部の職員室へ移すなど、教室環境の改善を図った。
- 中信地区特別支援学校再編整備計画への不安の声を受け、懇談の機会を設定した。
- 結果を基に職員会議でグループ検討を行い、課題の分析や今後の方向について全職員で検討する機会を設け、日常の授業や学校運営の見直しを図れるようにした。
- 地域のセンター的機能を担っていることや専門性を高める研究をしていることなどが分かりにくいという意見を基に、情報発信のあり方について検討を進めている。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- 匿名性を担保した調査のため、詳細な聞き取り調査を行いたい意見があっても、記入者が分からず追跡調査がしにくい面がある。
- 学校ランドデザインに合わせて、評価の項目、設問の内容等について毎年見直し、検討していく必要がある。
- 学校評価を受けた学校の取組について、より分かりやすく保護者に伝える方策を再考したい。

6 参考（回収・集計のための工夫）

- 評価しやすいように項目を減らしたことにより、昨年度より回収率がアップした。さらに協力していただけるように日頃から保護者との信頼関係をつくっておく必要がある。
- 回収率をあげるため、提出を呼びかける案内を複数回行った。

平成 27 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

義務教育課

- 1 調査実施期間 平成 28 年 1 月 14 日～2 月 9 日
- 2 調査回答者 【授業評価】 中学校 187 校 【学校評価】 小・中学校 555 校
- 3 調査結果の概要

(1) 実施状況

	【授業評価】	【学校評価】
授業評価・学校評価の実施	93.0%	100.0%
マークシートによる集計	16.1%	7.2%
①匿名による評価の実施	72.2%	90.6%
②段階的な評価の実施	99.4%	99.8%
③自由記述欄の設定	81.6%	98.4%
* 匿名性を担保した評価の実施	62.1%	85.9%
評価結果の公表	87.9%	98.0%

* 「匿名性を担保した評価」とは、①匿名による評価、②段階的な評価、③自由記述欄の設定の3つの要素をすべて含んだ評価のこと

(2) 学校質問紙の回答から

① 授業評価について

- ・「教員が自分の授業を振り返り、授業改善に取り組み、授業力向上につながった」「生徒が率直な意見を書けるので、生徒の思いが明確に把握できた」等の回答が多かった。
- ・課題として、「具体的、個別的な対応や説明、指導ができなかった」等の回答があった。

② 学校評価について

- ・「率直な意見が増え、児童・生徒及び保護者の思いを把握しやすくなった」「具体的な改善策を考え、学校運営に生かすことができた」等の回答が多かった。
- ・課題として、「具体的、直接的に対応できない、返答できない」等の回答があった。

4 今後の方向

- ・市町村教育委員会、学校において、児童・生徒や保護者に評価の目的や活用方法を丁寧に説明することにより、学校運営や授業等の改善につなげている学校が多くみられることから、周知してまいりたい。
- ・匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況を把握しながら、実施について引き続き働きかけていく。